

# 29年度 私立大定員増 9千人超！

大都市圏の大学や大規模大多し  
地方創生のための政策が裏目に出たか

旺文社 教育情報センター 28年9月5日

文部科学省は8月25日、28年6月末までに受け付けた収容定員増加の申請(第2回)について認可を公表した。同省が本年度から開始した私立大の入学定員超過に対する私学助成の厳格化を受け、本年度は前年よりも収容定員増加の申請が多く、第1回及び第2回の合計9,387人の定員増加が認可された。これに大学、学部及び学科新設に伴う増加分を足すと、合計11,518人の定員増加となる。なお、定員超過率の厳格化は30年度まで段階的に行われる予定だ。

## ◆大都市圏、大規模大学に集中する入学者

大学は、教育の質保証などの観点から、学生数を収容定員(全学年の定員)に基づいて適正に管理しなければならないことが大学設置基準で定められている。学生数が定員に対して一定割合以上超過もしくは不足していた場合には、ペナルティが課される。現在、学生が大都市圏の大学や大規模大学に一極集中していることから、政府は地方創生を目的として28年度から“入学定員超過率の厳格化”を行っている。

私立大は収容定員の総数を増やす場合、文部科学省への認可申請が必要となる(第1回「3月末申請→6月末認可」、第2回「6月中旬申請→8月末認可」のいずれか)。第1回の申請は前述の“入学定員超過率の厳格化”の影響を受け、昨年よりも大幅に多い44校7,354人の申請があった(前年は25校2,665人)。さらにその内訳を見ると、入学定員の枠自体を増やしてこれまでと同等の入学者数を確保しようとする大都市圏の大学、大規模大学の割合が高く、本来の地方創生の目的が裏目に出た結果となった。詳しくは以下の記事を参照。

[http://eic.obunsha.co.jp/pdf/educational\\_info/2016/0629\\_1.pdf](http://eic.obunsha.co.jp/pdf/educational_info/2016/0629_1.pdf)

## ◆第2回目も前年の約2倍の定員増加

第2回で認可された大学数及び増加人数は、19校2,033人(前年は16校1,052人)。第1回と第2回の合計は62校9,387人と、前年を大幅に上回った(前年は39校3,677人)。

第1回と第2回の全大学の一覧(表1)、所在地別内訳(表2)、大学規模別内訳(表3)をまとめた。特徴は以下の通りで、大都市圏の大学、大規模大学の割合が高かった。

①3大都市圏(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県)の8都府県)だけで増加人数の約8割を占める(表2)。

②大規模大が増加人数の約半数を占める(表3)。

表1 入学定員増加 学校別一覧 (6月末および8月末に全て認可)

大学名	28年度 入学定員	29年度 入学定員	増加人数	前年比	大学名	28年度 入学定員	29年度 入学定員	増加人数	前年比
国際医療福祉大	1,660	1,765	105	106.3%	神奈川工科大	1,085	1,148	63	105.8%
群馬バース大	200	320	120	160.0%	長岡大	80	100	20	125.0%
東京国際大	1,455	1,605	150	110.3%	新潟医療福祉大	890	945	55	106.2%
人間総合科学大	230	310	80	134.8%	金沢学院大	540	560	20	103.7%
神田外語大	823	893	70	108.5%	岐阜医療科学大	240	270	30	112.5%
青山学院大	3,902	4,220	318	108.1%	静岡理工科大	360	370	10	102.8%
大妻女子大	1,430	1,545	115	108.0%	愛知工業大	1,200	1,315	115	109.6%
北里大	1,544	1,672	128	108.3%	豊田工業大	80	90	10	112.5%
杏林大	1,018	1,173	155	115.2%	名古屋外国語大	900	1,000	100	111.1%
工学院大	1,330	1,399	69	105.2%	南山大	2,075	2,210	135	106.5%
芝浦工業大	1,610	1,860	250	115.5%	人間環境大	295	375	80	127.1%
順天堂大	900	980	80	108.9%	名城大	3,155	3,370	215	106.8%
昭和女子大*	1,167	1,466	299	125.6%	京都女子大	1,295	1,345	50	103.9%
中央大	5,527	5,981	454	108.2%	京都橘大	945	1,035	90	109.5%
帝京科学大	1,200	1,220	20	101.7%	明治国際医療大	150	200	50	133.3%
帝京平成大	2,355	2,405	50	102.1%	立命館大	7,157	7,629	472	106.6%
東京経済大	1,390	1,570	180	112.9%	龍谷大	4,539	4,693	154	103.4%
東京都市大	1,475	1,620	145	109.8%	追手門学院大	1,560	1,670	110	107.1%
東京農業大	2,520	2,800	280	111.1%	大阪工業大	1,520	1,740	220	114.5%
東京理科大	3,565	3,890	325	109.1%	大阪体育大	605	645	40	106.6%
東邦大	907	967	60	106.6%	近畿大	7,050	7,970	920	113.0%
東洋大	6,732	7,301	569	108.5%	阪南大	1,015	1,055	40	103.9%
日本大	14,760	14,869	109	100.7%	神戸学院大	2,440	2,560	120	104.9%
日本女子体育大	457	512	55	112.0%	神戸女子大	825	855	30	103.6%
日本体育大	1,630	1,710	80	104.9%	岡山理科大	1,430	1,615	185	112.9%
文京学院大	1,175	1,220	45	103.8%	川崎医療福祉大	856	1,186	330	138.6%
武蔵大	950	999	49	105.2%	西南学院大	1,670	1,950	280	116.8%
武蔵野大	2,008	2,077	69	103.4%	中村学園大	640	740	100	115.6%
明治学院大	2,630	2,950	320	112.2%	立命館アジア太平洋大	1,200	1,320	120	110.0%
立教大	4,150	4,604	454	110.9%	志学館大	300	310	10	103.3%
麻布大	480	490	10	102.1%	合計	117,277	126,664	9,387	108.0%

\*昭和女子大は2回の申請の合計値。また、美作大は3年次編入の定員増のみだったため、本表には非掲載

表2 所在地\*別 定員増 申請内訳

所在地	大学数	増加人数	所在地	大学数	増加人数
栃木	1	105	静岡	1	10
群馬	1	120	愛知	6	655
埼玉	2	230	京都	5	816
千葉	1	70	大阪	5	1,330
東京	25	4,678	兵庫	2	150
神奈川	2	73	岡山	3	515
新潟	2	75	福岡	2	380
石川	1	20	大分	1	120
岐阜	1	30	鹿児島	1	10
			計	62	9,387

\*大学本部の所在地

表3 大学規模別 定員増 申請内訳

規模	大学数	増加人数
大規模	15	5,265
中規模	24	3,398
小規模	23	2,385
計	62	11,048

※収容定員8,000人以上を大規模大、  
4,000人以上8,000人未満を中規模大、  
4,000人未満を小規模大とした

## ◆大学、学部、学科新設による定員増も恒常化か

29年度に増加する定員は前述のものだけではない。上記のほか、新設の大学、学部、学科の定員増が加わる。29年度開設予定の大学、学部、学科はそれぞれ4校、16校、6校で、合計2,131人の増加となる(前年は2,150人)。なお、内訳を見ると、特に地域医療を支える看護・医療系が多い。

## ◆定員増加は今後も続く可能性

前述の定員増加と、大学、学部、学科の新設に伴う定員増加を合わせると、11,518人(前年は5,827人)となり、前年の約2倍。“定員超過率の厳格化”は30年度まで段階的に続くため、来年度以降も大幅な定員増加が継続する可能性がある。また、“入学定員超過率の厳格化”の本来の目的は地方創生だが、今回の定員増加のうち、北海道・東北・四国は「0」。依然として地域格差はあるようだ。